

大牟田市総合計画審議会(第3回)会議摘録 【第1部会】

- ◆ 日 時 令和5年7月19日(水) 18:00～20:10
- ◆ 場 所 大牟田市役所北別館4階第1会議室
- ◆ 委員出席状況 出席17人
欠席3人

- ◆ はじめに(事務局より説明)
 - ・部会の進め方について
 - ・部会審議結果のまとめ方について

1. 議事

(1) 部会長及び部会長代理と起草委員の選出について

- ・部会長・部会長代理について、立候補者を募ったが特になし。
事務局(案)を提示したところ、意見がなかったため、以下のとおり決定した。

事務局 (案)	部会長	部会長代理
第1部会	下原委員	畑田委員
第2部会	萬矢委員	紫牟田委員

- ・起草委員については、各部会より3名選出する旨を事務局より説明
質疑なし

(2) まちづくり総合プラン基本計画(案)について

- ・部会毎に分かれて審議を行うため、第2部会の委員は北別館第2会議室に移動

第1編 未来を担う心豊かで元気な人が育まれるまち

①第1章 安心して出産・子育てができる環境づくり

委員 お隣の荒尾市では、ことし10月からの診療より、荒尾市に住民票を置き、健康保険に加入した18歳以下の高校生年代までの市民の医療費の自己負担分は市の負担となり、条件が該当する荒尾市民は実質医療費負担がゼロとなります。こうした同様の施策は、大牟田市で実施される予定なのか。資料の文脈を読む限りでは、文言が出てこないが、いかがか。

保健福祉部 委員ご指摘の通り、荒尾市では、今年の10月より18歳以下の高校世代までの医療費の自己負担額が無償化され、手厚い支援が予定されている。また、県内の複数の自治体においても、今後独自の上乗せ助成が行われ、子育て家庭への支援が拡充されることを承知している。
本市としては、現在、必要となる財源などを総合的に判断し、さらなる制度の充実に向けて検討している。

- 委員 検討しているというのは、回答にならない。進捗状況なり、今後どういうふう結論を出すのか言ってもらわないと。検討しているだけなら何も変わらない。
- 保健福祉部 荒尾市が実施予定であり、近隣市町もすべて実施されていることから、市長含めて前向きに検討している
- 保健福祉部 荒尾市等の近隣市町の状況を確認中であるが、やはり費用の問題が出てくる。子ども医療費に限らず、子どもの施策をどんな風に、優先順位を持ってやっていくかというところを考えていかなければいけないと考えている。
毎年度の予算編成の時期や、或いは今回の総合計画を策定するタイミングで検討して、具体的には、総合プランに掲げる施策を実現するための事業を示したアクションプログラムの中で具体的などころを示していけたらと考えている。
- 委員 医療費云々の話になると、医療費全体に占める若い世代の医療費が幾らぐらいなのか。そういう取っ掛かりぐらいは今の説明であってもよかったのでは。そして、市の財政に占める割合など教えてほしい。
- 保健福祉部 試算段階ではあるが、例えば医療費助成を荒尾市並みの高校生まで無料にするとすると、8,000万から9,000万ぐらいかかるという試算をしている。
- 委員 年間8,000万から9,000万ということか。
- 保健福祉部 そのとおり。
- 委員 高齢者にかかる医療費に比べれば格段に安いと思う。桁違いに安いはず。
- 委員 ※部会長代読 少子高齢化率が高い本市において、このまま何も施策を打たなければ、人口は減少するばかりだと思う。安心して出産・子育てができる環境づくり対策として、出産祝い金（1人目・2人目・3人目・4人目）給付金制度の検討をしてはどうか。
- 保健福祉部 本市では、今年の1月よりすべての妊婦、子育て家庭が安心して出産、子育てができるように、出産子育て応援交付金事業を行っている。この事業は、妊婦届時の面談を市の職員が行い、出産に関する困りごとなどの聞き取り等を行っている。その後、出産ギフトとして5万円、また、子供が生まれた後は、乳児家庭訪問時に、様々な子育てに関する相談を

聞き取り、子育て応援ギフトとして5万円を支給しております。
こういう事業を通して、伴走型の相談支援の充実と経済的支援を一体的
に実施している。

委員 現況と課題の二つ目のポツのところの、「核家族化や地域との繋がり
の希薄化などにより～弱くなっています」という文言が四つ目のポツにも
入っている。
四つ目のところは、これの文言がなくてもいいのでは。

保健福祉部 検討する。

②第2章 持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成

委員 ※部会長代読 安心・安全な学校教育環境充実関係において、市内小学校全校に防犯カ
メラが設置されていると思うが、中学校については、全校設置されてい
るのか、又今後の設置予定について伺う。

教育委員会 中学校においても、全校設置している。今後も関係部署と連携をとりな
がら対応を進めていきたい。

委員 施策推進のためには教員の人数確保が重要である。現在、大牟田市内の
教員が足りているのか、今後施策を進めていくにあたり教員を増やして
いくことは可能なのか。

教育委員会 現在、小中学校における学級担任、また、中学校における教科指導にお
いて人数が不足していることはない。教員については、県費負担教職員
ということで、県から人数が配置されている。今後の人数確保につい
ては、県に要望していきたい。

委員 学校ではどのくらい ICT が進んでいるのか。紙の教科書を完全に使わ
なくなったという状況ではない。どのくらい使わなくなったのか、ペー
パーレスになっている状況がわかれば教えてほしい。

教育委員会 国の GIGA スクール構想に基づき、タブレット端末を一人一台配置し
ており、日頃の授業にも使われている。デジタル教科書については、英
語、算数、国語等を中心に各学校において活用がなされているところ。

委員 いじめのことについて伺いたい。いじめの現場をどのように把握してい
るか。マスコミなどで見ると、行政側といじめられた側の言い分が食い
違っていることが多々ある。大牟田市において、特に何らかの工夫がさ
れている、もしくは普段からどういうふうにいじめの現場を拾い上げて
いるのか、大牟田市独自の取組があれば教えてほしい。

教育委員会 いじめのアンケートはもとより、子どもたちの日々の様子の担任による見取りを丁寧に行っている。また、教育相談を毎学期充実させている。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置しており、担任だけでなく、チームとして子どもたちを見取ることを心がけている。

委員 その取組が成し得た成果は。

教育委員会 いじめ自体が深刻な状況になる前に、いじめの芽の段階で摘み取ることが一番大切なことだと思っている。事前に兆候をキャッチして、早い段階の対応ができやすくなっている。
また、いじめを生まない学校づくりにも取り組んでいる。専門家以外も含め、学校全体で取り組んでいるところ。

委員 実績はあがっている、芽のうちに摘むことができている、だから大牟田で大きなニュースになっていない、そこまで言ってもよいか。

教育委員会 いじめを認知するというところに主に主眼を置いている。多くのいじめを認知してそれをいかに解決するか。大きなことにならないうちに、レーダーを張って、そこで認知し、それを解決する、そのようなパターンで対応をしている。

③第3章 高等教育機関等との多様な連携や交流の推進

委員 第3章に、高等教育機関等と連携協定を締結し、教育や健康・福祉、就職促進、空き家活用について、連携を進めてきたとの記載があるが、市として、連携協定や取組み内容などについて情報発信をするべきではないか。

企画総務部 高等教育機関等との連携協定や取組み内容について、ホームページ等で情報提供しておりませんが、市の施策の成果として、評価・検証シートを市議会で説明し、ホームページに掲載している。今後は、委員の意見を参考に検討する。

④第4章 学びを通じた人とのつながりの促進と地域で自ら行動する人の育成

委員 第4章では、学びを通じた人との繋がりでの促進と地域で自ら行動する人の育成ということで、積極的なコミュニティづくりやコミュニティデザインなど、未来を見つめた施策だと思う。実際に推進するための人の育成のために必要な指導者、時間、空間をどのように確保するか、の展望についてどのように考えているのか。

市民協働部 第4章での人の育成については、社会教育的な視点での人づくりについて考え方を示している。生涯学習課では、生涯学習ボランティアの育成を行っている。地区公民館で企画をした各種講座の受講生が、その後サ

ーカル活動、ボランティア活動へと繋がるとともに、次の講座の講師や指導者となる、いわゆる学びの循環を行っており、この仕組みを強化しながら、生涯学習ボランティアの育成を行っていきたいと考えている。また、市民ニーズも多様化しており、場所などの確保も重要と考えている。生涯学習課では社会教育生涯学習基礎調査研究を行っており、この中で学習する時間帯や学習スペースに関する調査なども行った。また新型コロナウイルスの影響で学習する形態も変化してきている。ことから、現状と課題において、学習活動のデジタル化等について記載している。以上のことから、第4章の視点2から視点4までの考え方を踏まえ、具体的な取組みを進めていきたい。

委員
※部会長代読

視点1について、「郷土愛の醸成を図る」とあるが、実際にはどのような体験や活動が行われているのか知りたい。
私が思うに、歴史的な学習と合わせて、大牟田の現状としてどのような企業があるのか
(<https://www.city.omuta.lg.jp/kiiji00316408/index.html>)など、知らない場合があるので、大牟田市も将来の選択肢としてビジョンを描きやすいようなサポートがあればいいと思う。

市民協働部

郷土愛の醸成を図るための体験や活動については、視点1において、次世代を担う子供を地域や社会全体で育むため、家庭や学校、地域の様々な人と関わり、いろいろな体験交流を通じて、人間性や社会性、郷土愛を育む事業を行っている。具体的には、高校生を対象とした高校生まちづくり体験事業や、小学校4年生から6年生を対象とした子ども未来デッサン事業、中学生を対象とした南筑後地域未来の地域リーダー育成プログラム事業など、年齢に応じた様々な体験や活動ができるメニューに取り組み、自分の将来のことを考え、夢や目標を見つけるきっかけとなる機会を提供している。また、地区公民館でも、夏休み等を活用し、食や環境等をテーマに、ものづくりや自然化自然体験など、子供たちの交流、体験講座を行っている。
今年度もパティシエや企業紹介冊子に掲載されている企業の協力のもと、eスポーツやAIに聞いて学ぶ学習の機会を用意している。昨年度は子供未来デッサン事業で、大牟田の企業の紹介冊子に掲載されている企業の体験を行っている。
体験する機会を子供たちにしっかり提供し、大牟田を好きになってもらい、これからも住み続けたいというふうに見えるように事業を進めていきたい。

委員

学習する場を幅広く提供していることについては、非常に感心してる。この審議会では、人口減を一番重く捉えており、今後10年を見据えて、小中高校生といった若者が、大牟田市内での就職ができる企業や学習したものを表現できる場所があるのか、あわせて起業するための支援など、学習する場から連続しないと、高校卒業後大牟田から出て行く現状が続いている。大牟田の魅力を継続して伝える取組みが必要と考えるが、今後どういった取組みを考えているか。

市民協働部

生涯学習課で企業出前講座を行っている。企業がもっているノウハウや

技術を市民に還元しており、小学生から高校生まで申し込みがあつている状況。現在市内企業 30 数社 54 メニューの登録がある。また、昨年度実施した夢の花咲く青春祭では高校生と地元企業がコラボして商品開発を行った。企業は高校生との商品開発はメリットと捉えており、今後とも推進していきたい。

委員 きっかけづくりの取組みについては分かった。仕事は企業に就職するほか、起業もある。起業につなげるための勉強になると思うが、実際に起業までつなげることが大事。様々な施策に取り組んでいることは分かるが、大牟田にいかにか人を残すか、残ってもらうか、そこに視点を置き直してもらいたい。それが人口減を食い止めることになり、その思いをもう少し表に出してもいいと思う。

⑤第5章 スポーツに気軽に親しめる機会と環境づくり

委員 今年5月に市主催でファミワングランプリが開催され、テレビでも紹介された。eスポーツについては文科省がバナーをつけて応援しているなど、スポーツとしての認知がかなり進み定着している状況。第5章ではeスポーツについて触れた文章がないが、新たなスポーツの拡張や考え方がどう進むのか考えを聞きたい。

市民協働部 eスポーツという言葉は比較的認知が進んできているが、新しい言葉と捉えている。受け取られる印象であったり、中身も様々で、一般的なスポーツ関係者の受け取り方もさまざまであると考えている。第5章で考えているスポーツは、国のスポーツ基本法にあるが、個人または団体で行われる運動競技、その他の身体活動とされているものとなる。また、国の第二期スポーツ基本計画では、スポーツとは、体を動かすという人間の根源的な欲求にこたえ、精神的な充足をもたらすものという定義もある。いずれにしても現時点では、我々が考えるスポーツとeスポーツは少しまだ距離があると考えている。
産業振興といった視点も関連してくると考えられるが、この章では、スポーツを通して健康づくりであったり、体力づくり、仲間づくり、生きがいづくりを進めていくことが主眼となっており、ご提案の内容についてはこの章では馴染まないのではないかと考えている。

委員 これから10年先のことを考えたときに、そのような計画でいいのかどうか疑問を感じる。eスポーツも、体をすごく動かすので、その理解も進んでいかないといけない。その10年先ということを意識した方がいい。

委員 スポーツ少年団の団数、団員数が過去10年で減少し、少子化の問題がそのまま反映しており仕方ない。子どもたちは、スポーツを通じたコミュニケーションで仲が良くなることがずっと続いていたが、今後はそれができなくなる。現況と課題に記載のとおりで大きい課題。特に中学校部活の問題も含め、団体競技については、各学校単位では存続はできない。試合も練習もできないため、他校と合同での実施やそれぞれ工夫してやっている状況。そういった中で、子どもたちのスポーツ環境を今後大きく変えていかないと、本当の意味でのこのスポーツ施策っていうの

は充実していかないと思う。より具体的に表に出していただきたい。そういう中で、未来を担う子供たちが見て、スポーツを通して健全な発育と精神的なものであり、そういったスポーツのあり方が、以前のままでは難しいので、どう変えていくのかをしっかりと考えないといけない。スポーツ庁は、中学校の部活動を地域に任せるという施策も出しており、令和8年度に完全施行するという状況。受け入れ体制も、まだまだ進んでいない状況で、今後十年間を見たときに、地域の指導者や子供たちへの指導者をどこまで小学校、中学校、高校に派遣し、スポーツの魅力を伝えていく必要がある。そういったところまで踏み込んで、今後の施策を打っていただきたい。

総合体育館も新しくできていることから、そういった施設も利用しながら、全国的に弱まっているスポーツ力、競技力を高め、子供たちに夢を持ってもらうこととも必要と思う。指導者育成をお願いしたい。

委員 第4章にも関わってくることだが、今後高齢者や大人も大牟田で活躍の場を求めていくべき。言葉が抽象的であるが、有機的にやっていく必要がある。行政が支援をするのは中高生であることは分からなくもないが、今後はICTを組み合わせて世代の垣根を取り払う必要がある。ICTはどうしても若い世代が得意。例えば高校生と高齢者の交流の場を設けて、デジタルリテラシーを上げていかないといけない。
eスポーツも、青少年当事者にとってははれっきとしたスポーツ。近い将来オリンピック競技にも必ずなるようなもの。ベースにはデジタルリテラシーの差や認識の差がある。その垣根を早くとっばらうことが、今後十年間のビジョンを決める計画書を身のある計画にすると考える。

委員 文科省のホームページでは、スポーツとは「する」「みる」「ささえる」。今計画に書かれてることは、「する」スポーツのことばかり記載されているようだがいかがか。

委員 「みせる」スポーツは行政では難しい。体育協会等が一流の試合を誘致する取組みなどを下支えする仕組みを行政でもってもらいたい。
「する」「みせる」「ささえる」に加え、防災や障がい者高齢者の健康増進を含め、他団体、関係団体との連携強化をやっていけるとよい。
総合体育館は全国大会やプロの試合の誘致も可能になるため、「みせる」スポーツはできると思う。例えば、総合体育館に有名な選手が来た様子をオンラインで自宅でも見れる。それもスポーツと大きく捉えていいと思う。

市民協働部 スポーツには「する」「みる」「ささえる」という視点があるが、昨年度策定の大牟田市スポーツ推進計画においてもこの3つの視点を意識している。一つが、誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり。これは「する」。それから活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり。これは「みる」という視点に含まれる。それからスポーツがしやすい環境づくり。これは支える。これについては、今回の計画を策定するにあたって十分意識をして考えたところ。今回の文章については一部偏りがあるということであれば、修正する必要があると感じている。

- 委員 視点1のICTを活用したスポーツの機会創出等について具体的または例があれば知りたい。
- 市民協働部 ICTを活用したスポーツの機会創出については、まだ具体的にはなく、今後、ICT技術を活用したスポーツの機会創出は必要という視点で記載している。
- 委員 eスポーツのこと指してるのかと思ったが、そうではないのか。
- 市民協働部 eスポーツのことではない。昨年度の審議会の議論の中でもeスポーツの議論は、全くなく、このことがeスポーツのことを指しているということではない。
- 市民協働部 生涯学習課では、健康づくりや社会参加という切り口で、昨年度から地区公民館で、eスポーツをNintendoSwitchのぷよぷよや太鼓の達人、ボウリングなどを、講座の中で取り組んでいる。ツールの一つとして使っており、世代間交流も今後、取り組んでいきたい。eスポーツは高校生、中学生で盛んに取り組まれており、地区公民館が集いの場となる一つのツールと考えており、今後も様々な活用ができると考えている。第4章でも記載のとおり、デジタルリテラシー向上のために地区公民館、公共施設すべてWi-Fiが整っており、そういう環境も活用しながら、いろんな方が気軽に対応できる取り組み、これからの十年間、しっかり見据えて取り組んでいきたい。
- 委員 質問1：学校開放で体育館を利用している団体も多いと思いますが、施設・備品の状態が悪い所がないか。
 ※部会長代読 質問2：市民体育館のコート使用料は2時間220円で、備品はちゃんと整備されています。一方、学校開放は520円なのに前述のとおりであれば不公平ではないか。
 質問3：財源対策の一環として受益者負担で有料になったと思いますが、学校への予算配分の関係や、学校現場、特に教頭先生は、利用団体との連絡・調整にお忙しく、手が回らないと思う。体育館は、児童生徒はもちろん地域活動で使用される機会もあると思うので、安全上も整備に気を配るべき。
- 市民協働部 学校施設の使用許可については、各学校で行っており、開放施設の円滑な運営を図るために、学校ごとに学校体育施設開放運営委員会が設置運営されている。
 学校体育施設の開放にかかる施設や備品の状態についての指摘については、教育委員会と連携して現状把握をし、学校体育施設の開放が安心安全に行われるよう、適切な対応を図って参りたい。

⑥第6章 郷土の歴史と文化芸術を通した心豊かに生活できる社会づくり

- 委員 郷土の歴史という言葉について。文化財保護法では各自治体において文化財保存活用地域計画という名称で計画策定が定められている。その中でも地域計画という言葉を使っている。郷土という言葉は、もともと

た人のふるさとという意識が強く、言葉としては、非常に感触は良い。一方で、人口減少の中、外からの移住者による人口アップをしていかないといけない、あるいはダイバーシティの中で、施策名における郷土という言葉は、例えば地域等の一般的な言葉にした方が良いのではないか。

企画総務部 郷土という言葉は、自分の生まれ育った土地とか自分を育てた地理的環境、地方とか土地という意味がある。大牟田の歴史とか大牟田の文化という意味で用いていたが、生まれ育った以外の方々にとっては排除するような印象という意見を受けて検討したい。視点1の中では「まちの歴史」という言葉も用いており、「地域」あるいは「まち」の歴史という言葉に置き換えることを検討したいが、例えば、「郷土を愛する気持ち」を「地域を愛する気持ち」という形に変えると、ちょっとしっくりこない印象もある。

委員 帝京大学では、一年生の全科目全員に郷土の歴史と文化と生活という科目がある。日本各地から学生来ており、大牟田に大学生として進んだ以上、外から来ていても第2の故郷、郷土と思って欲しいという願いもあって取り組んでいる。

委員 その言葉がありとかそんなイメージで全くなく、そういう議論があってもいいのではないか。いろんな場面で使い分けることが大事だと思う。

委員 ※部会長代読 大牟田文化連合会は令和6年に創立70周年を迎える。発足当時市内の文化人や行政が主体となって設立されました。最盛期には会員が3,000人を超えていましたが、現在は、人口減少の影響もあり、1,500人を割りこんでいる。

会員も文連事務局も高齢化し、今後の文化活動の停滞も懸念されます。一方、平成25年に公益財団法人大牟田市文化振興財団が設立され、豊かな市民生活を築くため文化の振興に努めておられている。

質問1：大牟田文化連合会の事務局は設立以来事務局長宅に置くことになっているが、令和5年度から大牟田文化会館内に置かせていただいている。今後一層の連携を図って文化振興・発展に努めていかななくてはならないが、将来的には一体化することは考えられないか。

質問2：文化事業は、各種文化施設、地区公民館、教育機関、民間の活動からなっているが、その中心的施設は大牟田文化会館。ところが令和5年に大ホールが事故で使用不能となり、これは老朽化による影響も否定できない。また、イベント開催時に駐車場が不足ことも含めアクセスを考慮したうえで、改築を見据えた計画を立てるべきではないか。

市民協働部 文化振興財団の取り組みとして、文化活動の相談及び支援を行っている。また、文化財団と一体的な文化振興を図るため、大牟田文化連合会の事務局を大牟田文化会館内に設けて、情報の共有や文化連合会と連携した事業展開が図られている。一方、文化連合会については、昭和42年に設立以来、長い歴史を持った独自の取り組みを実施しており、組織形態、運営も独自で行われている。仮に文化振興財団と大牟田文化連合会の事務局を一体化した場合、双方が行う事業や運営、さらには大牟田

市が行っている文化連合会に対する支援についても影響があり、整理が必要になると想定される。以上のことから文化連合会と文化振興財団との事務局の一体化については、3者を交えた協議が必要であると考えている。

質問の2点目について。文化会館は、昭和61年の7月に開館し、老朽化が進んでいる。まずは利用者の安心安全を第一に考え、計画的な施設改修など、長寿命化の対策を行っている。本年4月に発生した大ホールのスプリンクラーの事故は、人為的ミスによるもので、老朽化に直接起因するものではないが、経年劣化に伴う設備等の不具合は、増加している状況。また文化会館の駐車場のスペース不足については、長年の課題であり、市民、議会からも要望、改善等の意見がある。過去に立体駐車場などの検討も行ったが、立体化しても駐車台数がさほど増えない試算となった。また工期が長期間になり、工事中の駐車場の確保といった課題もあり、解決が現段階では非常に困難。このため近隣の駐車場の活用等、何がしかの方策について継続して検討を行っている。

委員

音楽は自分のモチベーションを保ったり、意識を上げたりする人間にとって大事なツールの一つだと思っている。計画に記載のとおり、青少年にとっても文化として前向きに捉えていく必要がある。

そうした中、おおむた大蛇山まつりは歴史ある文化だと思うが、記載がない。文化として捉えることが大事だと思う。

また、現況と課題に日本フィルハーモニー交響楽団との推進協定について記載がある。質の高い文化に触れることは大事だと思うが、今、子どもたちに人気の音楽が何かなど、それに対するアプローチをやろうとしているのか。質の高い音楽はもちろんのこと、多様な音楽をとおして青少年の心を捉えていく10年間にしてほしい。

文化会館というツールを使い、生涯学習の充実を図るという記載はある。それとは別に、まちなかコンサートというものを実施し、市民の発表の場、次のステップアップになる仕組みを作ることが大事。建物内で実施すると外から見えないため、まちなかの商店街の中で実施するなど、市民参加の充実を考える際、そういった視点も検討してほしい。

また、視点3で「福祉教育などの様々な分野の価値を、人づくりまちづくりの面で生かすとともに、人々の相互理解や多様な価値観が尊重される取り組みを進めます」とあるが、具体的にどういった取り組みを行うのか。

市民協働部

文化芸術については、地域における伝統的な芸能や地域における地域独自の踊りや音楽も含まれており、おおむた大蛇山まつりについてもその中に含まれる。そういった部分を視点の中に盛り込む形で修正を検討したい。

次に、身近なところで文化芸術に触れるという点については、文化芸術振興プランの検討を進める中で、文化施設のみならず、街中や身近な店舗などの日常生活の中で気軽に文化技術に触れる機会を作るべきだという意見等もあるので、その考え方を反映させていきたい。視点2, 3, 4において、ご指摘のあった文化芸術を活用した新たな価値や多様性の創出、いわゆるにぎわいの創出などが入ってくる。

次世代への文化芸術の提供については、保護者アンケートでは、文化芸

	術のニーズが多様化しており、例えば親子鑑賞、メディア芸術等の要望があった。新しく策定した文化芸術プランでは、子供たちのニーズとかを的確に把握しながら対応していきたい。
委員	まちなかコンサートは総合的に活性化、経済効果もあり、まちづくりにとって非常に効果的なものと思うため、早い時期に実現してほしい。
委員	郷土歴史文化芸術施設に、大牟田市動物園は含まれているのか。
市民協働部	大牟田市動物園については、部署が異なるので表現としては入っていないと認識している。
委員	部署が違くと芸術や郷土の歴史には入ってこないということになるのか。
事務局	2編第2章において、大牟田市動物園、おおむた大蛇山まつり等については本市の地域資源であり後世につなげるとともに市内外の方にその魅力を伝え、さらなる交流人口の増加につなげることが必要ということを記載している。
委員	記載を分けることで予算も縦割りにになってしまう。観光の視点でも、文化の視点でも記載することで、それぞれの予算がつき、一つの事業がもっと充実すると考えられる。部署が異なることで予算がつけられないという流れが市役所内に流れており、どこかで横のつながりを持ってほしい。これが地方行政のいいところなので、文化でもきちんと考えることで次につながると思う。
市民協働部	動物園には絵本美術館が併設されている。これは文化振興プランの中にも位置づけており、動物園と融合したコンサートの企画なども行われている。次の文化芸術振興プランの施策の中にも明記して参りたい。
	⑦第7章 人権や多様性を尊重し、自分らしい生き方が選択できる社会づくり
委員	女性の活躍は以前から言われており、男女共同参画が推進されているのか、今社会にどう浸透しているのか状況について聞きたい。
市民協働部	昨年5年ぶりに市民意識調査を行った。その結果、女性の社会進出を含め、意識はだんだん上がってきている。男性の方の意識は、一部家事分担等に関する意識は上がってきているが、社会全体として総合的な意識はまだ進んでいない状況。今年3月に男女共同参画プランの改定を行い、今後はそれに沿って取組みを進めてまいりたい。
委員	LGBTQについて。直近では法律化されたが、地方ではまだ理解が進んでいない。これは他職種にもわたる問題でもあることから、医師会の協力を得るなど、先手の対応をお願いしたい。市民向けのアンケートもとり始めても遅くない時期に来ていると思う。
市民協働部	医師会の方からも今後協力をいただくという言葉をいただき、非常にあ

りがたく思う。LGBTについては、理解増進法も最近成立し、大牟田市としても、まずはそのLGBT、或いはLGBTQに対する、市民の意思、理解、意識の促進が必要。5年ほど前から年に数回LGBTの当事者等による講演会を実施しており、こういった取り組みを始めた。今後は理解増進法もできることから、これをさらに加速して進めていく必要がある。その際には医師会含めて、市民、団体、他の部などと協力し、取り組んでいきたい。

委員

LGBTQに関しては、大牟田市では講演会等を実施しているが、参加者が関心を持った一部の方、同じ顔ぶれの方しか参加していない。当事者の生の話を聞くと身近に感じることができる。学生の中でも、学習会や研修会も実施されており、実際に当事者をお呼びして生の声を聞くような、そういった取組みがもっと広がってほしい。

2. その他

事務局

次回は8月7日（月）18時より、各部会に分かれて開催。

以上（20：10）終了